



*miho Hatanaka,*

若い頃には歌を、雰囲気や流行りということでもまると、聞いていたのかもしれない。あるいは好きな歌詞の一部だけを聴いていた。同じ歌を徐々に聴いて、当時とは異なる聴こえ方がすることもある。まると聞くのもよし、違う聴こえ方に出会うもよし。今回は、ラジオから聞こえてきた歌の話と、一枚の写真を。



【第7話 こころのなかで、願う】

看護学校での前期の心理学の講義最終日、行きがけの車の中でラジオをかけていると THE BLUE HEARTS の歌が流れてきた。『人にやさしく』だ。懐かしい。若い頃、よく聞いていたが、耳を澄ましていてふと、初めて聞いたような感じがしてびっくりした。“ええ！ この歌、こんな歌やったんか”。

歌のなかに、「がんばれ」という言葉が何度か出てくる。昭和ではない令和の時代、一般にこの言葉を使うのはちょっと難しく、「人の気持ちもわからずに勝手なことを言うな」とか「これ以上がんばれと言わないでくれ」という思いを持つ人がいることは理解できる。だからそういう意図はないにせよ人に対して用いることはしないが、自分に対して「がんばれ」と思うことはあって、好きな言葉のひとつでもある。ただそのときというのは、鼓舞するのではなく労いの気持ちがあるとき。「ああ、あんたほんまによう、がんばっているよねえ」というときかな、と思う。私が、私のたったひとりの応援団として。

「わかるで。わかってるで。そのこと、私がほんまに、ようわかってるさかいにな」

この歌が歌われた時代との違いだけではなく、私自身が歳を重ねるなかで、「がんばる」ことも「がんばろうとする」ことも「がんばれない」ことも「がんばらない」ことも、たくさんの「がんばる」に関する経験が増えて、がんばる、は、成績や評価のためだけではなく、また「もっとやれ」でもなく、「踏ん張る」とか「耐える」とか「遣り過ごす」とか、いろいろなニュアンスを含むものとしても感じられるようになってきているからかなと気づく。だから今、聴くこの歌は、何か響くのかもしれない。

またがんばれと人に言うことはなくてもこころの中で思うことはあって、それは「思う」というよりは「願い」のようなものかもしれないと思う場面がある。

『人にやさしく』の歌詞のなかに、次のような言葉がある。

♪ 期待はずれの 言葉を言う時に  
心の中では がんばれ って言っている  
聞こえてほしい あなたにも

これに続いて、甲本ヒロトさんは「がんばれ」と叫ぶ。

人に何か言葉がかけられたらと思うとき、それが真剣に伝えねばと思えば思うほど難しく感じることもある。相手との関係がどのようなものであるかも、どの言葉を選ぶかに関係する。そうするとますますいろいろと考えすぎて、本当に何も言えなくなってしまふ。ただ一方ではだんだんと“えー加減”な自分も増えてきて、「どうもこれは省エネでいったほうがいいぞ」という、逆説的ではあるけれども智慧のようなものも働いてくるようになった。言葉が、どうもうまく出てこなければただ、傍にじっといて、その人が言葉を紡ぐのを黙って“見届ける”のも、ひとつの誠実の形だろうか、という気がしてくるのである。そもそもその時の相手に合うかどうか以前に、自分のこころにぴったりと浴う言葉がみつきりきらないのに口にするの、借り物のような感じで胡散臭いではないか。でも、こころのなかでただ「がんばれ」と願うことはできる。このときのがんばれは「あなたが何かをすること」を望んでいるわけではなく、そこに居る“あなた”に、「そんなあなたが居ることを、私が、知ってるよ」という、連なりの想いからくる願いなのだ。

個人に対するカウンセリングの場ではなく、講義や、小学校や中学校での性教育などの場で出会う子どもたちには、もっと大きな「がんばれ」を“発する”こともある。

『人にやさしく』の、もう一か所。

♪ 僕はいつでも 歌を歌う時は  
マイクフォンの中から がんばれ って言っている  
聞こえてほしい あなたにも

そして、「がんばれ」。

私は授業では子どもたちの授業中の発言を拾うだけではなく、アンケートやレポートやワークなどいろいろな形で書いてもらう機会を設け、そこに書かれた言葉を用いて授業を進めている。なかには個人的な開示や悩みを書く子どももいて、その子に対してどうにかして返事をしたいときや、その内容が誰にとっても重要だと思える場合には、やはりきちんと言葉で伝えたいと思う。ただ授業のなかでほかの子どもたちの前で名指しで答えるわけにはいかないのが、個人的な部分は伏せて「これを書いた人に、あなたへの返事だよとわかってくれたらいいんだけど、どうかな、届いてるかな？ 気づいて聴いてくれてありがとうございますように」と付け加える。すると、授業の後で必ず、「畑中先生、あれを書いたのは私です」と言いに来たり、感想文に「答えてくれてありがとう」と書いたりする子がいるのである。よかった！ 聞こえてた。スクールカウンセリングの仕事で全校配布のおたよりを出す時にも、“あの子”や、“あの子”や、“あの子”に、「聞こえてほしい」言葉を込める。だから…。多分、その時、私はひとりの **rocker** になっていて、♪聞こえてほしい あなたにも♪ と、“うたって”いるのだ。そしてその声は問いかけた本人に対してだけではなくきっと、ほかの子どもたちにも「なんか伝えたいことがあるんやろうなあ」と感じ取られ、なかには自分のこととして受け取ってくれることもあるのではないかなと思う。

ラジオからこの歌が流れてきた日、私は看護学校に着いて講義を始める前にいつものように何か少し、この歌のことも話したくなった。「今日、ここに来る車のなかで、私がみなさんと同じくらいの歳の頃によく聴いていたロックがかかっているね…」。懐かしかったわあ、では講義に入りましょう、と、なんとも中途半端な話になってしまった。まだ言葉がまとまらず、なんとなく自分でも滑稽な感じがしたが、まあいい、その日、たくさんいる学生の誰かに、その子にとっての別の何か「がんばれ」が聞こえていたらいいな、と思う。



【 「まあ 飲みなはれ」 】